

ながさき農林業大賞運営委員会会長賞

運営委員会長賞

受賞部門：露地野菜部門（トップファーマー）

氏名（年齢）

栗原 光博（49歳）

栗原 千恵（49歳）

市町名 雲仙市国見町

所属団体 ながさき南部生産組合



1 経営の概要

	主品目（白ねぎ）	その他	合計
作付面積(頭羽数)	820a	—	820a
単収	3,049 kg/10a	—	3,049 kg/10a
生産量（販売量）	250.0t	—	250.0t
労働時間 （うち雇用時間）	22,160時間 (14,240時間)	—	22,160時間 (14,240時間)
家族従事者数	4人	経営の継続性	経営主が60歳以下
労働条件の整備	家族経営協定（H31年）		
安全・安心と環境に 調和した農業の取組	ながさき南部生産組合規定に基づく特裁レベルの栽培、J-GAP認証、資源循環（地域内資源活用とねぎ残渣の堆肥混合）		

2 特徴的な取組

- 地域の標高差を活かした周年栽培体系の確立や収穫作業の省力化を図るため、ねぎ掘取機を地域でいち早く導入し、作付面積が820aとなるなど大規模経営を実現している。
- 「栗原ねぎ」は、雲仙市の独自ブランドに認証され、シンガポールや香港等への輸出にも取り組んでいる。

3 受賞理由の要約

- 地域の特性を活かした周年栽培や省力化機械の導入により、白ねぎの大規模栽培を実現している。
- 輸出などの販路拡大に取り組むとともに、障害者を15名程度、期間限定で定期的に雇うなど雇用創出と学習の場を提供し、地域に大きく貢献している。



栗原ねぎ

運営委員会長賞

受賞部門：施設野菜部門（トップファーマー）

氏名（年齢）

はしもと みつあき
橋本 蜜昭（59歳）

はしもと あけみ
橋本 明美（55歳）

はしもと もとのり
橋本 元徳（29歳）

市町名 平戸市

所属団体 ながさき西海農協平戸地区
いちご部会



1 経営の概要

	主品目（いちご）	その他（水稲）	合計
作付面積(頭羽数)	25a	28a	53a
単収	9,655.5 kg/10a	—	9,655.5 kg/10a
生産量（販売量）	24.1t	1.2t	24.1t
労働時間 （うち雇用時間）	6,600時間 (600時間)	—	6,600時間 (600時間)
家族従事者数	3人	経営の継続性	後継者が就農済み
労働条件の整備	家族経営協定（H12年）		
安全・安心と環境に 調和した農業の取組	太陽熱消毒と生物農薬、長崎県版簡易GAPの実践、資源循環の取組（地域部門間連携：2者間）		

2 特徴的な取組

- （1）環境制御技術に取り組み、研鑽を重ねた結果、平成30年産の単収は県最高となる9,655kg/10a（県平均4,252kg/10aの2倍以上）を達成している。
- （2）環境制御技術の勉強会を定期的に開催し、得られた成果を部会へ還元した結果、県下18部会中の平均単収順位が前年の9位から2位に上昇。高い技術力は地域のみならず、県全体の単収向上を牽引している。



収穫風景

3 受賞理由の要約

- 先駆的に環境制御技術を導入し、県平均の単収の2倍以上の収量を実現するなど高い技術力を有し、県下のいちご生産者の技術向上に貢献している。
- 部会で環境制御技術を導入し、技術確立に邁進した結果、単収が大幅に増加し、県下トップクラスの収量を誇るモデル産地として躍進している。

運営委員会長賞

受賞部門：果樹部門（トップファーマー）

氏名（年齢）

ばばりょうすけ
馬場 亮輔（47歳）

ばば
馬場 さゆり（41歳）

市町名 南島原市南有馬町

所属団体 長崎有機農業研究会



1 経営の概要

	主品目（みかん、かんきつ類）	その他（馬鈴薯、たまねぎ）	合計
作付面積（頭羽数）	570a	250a	820a
単収	2,259 kg/10a	—	2,259 kg/10a
生産量（販売量）	101.7t	76.0t	101.7 t
労働時間 （うち雇用時間）	6,515 時間 (3,346 時間)	4,342 時間 (2,230 時間)	10,856 時間 (5,576 時間)
家族従事者数	4人	経営の継続性	経営主が60歳以下
労働条件の整備	家族経営協定（H22年）		
安全・安心と環境に 調和した農業の取組	減農薬栽培、有機質肥料100%、長崎県版GAPの実践、資源循環の取組（自己完結）		

2 特徴的な取組

- 減農薬栽培や有機質100%の施肥体系、除草剤の無使用などを実践するほか、狭地直しや園内道の整備、スピードスプレーヤの導入、低樹高化、家庭選果の省力化に取り組んでいる。
- 温州みかんでは、品種・系統別に独自ブランドを設定し、それぞれを商標登録するなどして販売力の強化を図っている。



摘果作業

3 受賞理由の要約

- 減農薬・有機栽培など安全、安心な農作物の生産に取り組むとともに、生産基盤の整備や防除・栽培管理・選果作業の省力化を図り、大規模経営を実現している。
- 独自ブランドの商標登録に加え、6次産業化にも取り組み、丸搾りジュースや冷凍果汁などの商品化や原料供給を行い、高付加価値化を図っている。

運営委員会長賞

受賞部門：花き部門（トップファーマー）

氏名（年齢）

うしろだ とよき 後田 豊喜（57歳） うしろだ みどり 後田 みどり（56歳）

うしろだ たいほう 後田 大豊（30歳） うしろだ まい 後田 麻衣（30歳）

市町名 諫早市飯盛町

所属団体 長崎県中央農業協同組合諫早カーネーション部会



1 経営の概要

	主品目（カーネーション）	その他（草花・ばれいしょ）	合計
作付面積(頭羽数)	73a	草花 5 a、馬鈴薯 25 a	103a
単収	95,692 本/10a	草花 154,534 本/10a	250,226 本/10 a
生産量（販売量）	698,555 本	77,267 本	775,822 本
労働時間 （うち雇用時間）	14,460 時間 (7,564 時間)	1,204 時間 (20 時間)	15,664 時間 (7,584 時間)
家族従事者数	4 人	経営の継続性	後継者が就農済み
労働条件の整備	家族経営協定（H27 年）		
安全・安心と環境に 調和した農業の取組	防虫ネットの設置、長崎県版簡易GAP実践、資源循環（地域内資源活用）		

2 特徴的な取組

- 部会独自の仕立て方を開発し、疎植による種苗費削減と収量・品質向上を図るとともに、地元企業と共同開発した灌水同時施肥システムにより、灌水・施肥時間の削減を実現している。
- 補完品目にランタンキュラスとトルコギキョウを導入し、ランタンキュラスについては、オリジナル品種の育成や海外への輸出に取り組んでいる。



作業風景

3 受賞理由の要約

- カーネーションでは、部会独自の技術や地元企業と共同開発した省力化機器の導入により高い収益性を実現。また、ランタンキュラスなど新たな花きを導入し、経営を発展させている。
- 長崎県花き振興協議会カーネーション部会の役員などを歴任するほか、農大生の研修受入など、花きの振興に大きく貢献している。

運営委員会長賞

受賞部門：畜産部門（トップファーマー）

法人名（設立年）

株式会社 石井牧場

（令和元年5月1日設立）

代表取締役社長 石井 一彦

市町名 平戸市

所属団体 田平町和牛改良
組合



1 経営の概要

	主品目（繁殖牛）	その他（水稲他）	合計
作付面積(頭羽数)	繁殖牛 150 頭 (繁殖雌牛 18 ヶ月齢以上)	水稲 370a 飼料作物 1,255a 稲わら 500a	—
単収	子牛生産率 88.3%	—	子牛生産率 88.3%
生産量（販売量）	子牛 114 頭（市場） 成牛 15 頭（市場）	—	子牛 114 頭（市場） 成牛 15 頭（市場）
労働時間 (うち雇用時間)	8,092 時間 (2,000 時間)	1,348 時間	9,440 時間 (2,000 時間)
家族従事者数	4 人（役員 4 人）	経営の継続性	法人化済み（令和元年）
労働条件の整備	就業規則に関する規定あり		
安全・安心と環境に 調和した農業の取組	堆肥の供給、抗生剤等使用低減取組、生産履歴記帳、生産履歴に基づく販売、資源循環（地域部門間連携：2 者間）		

2 特徴的な取組

- (1) 牛群管理システムなど ICT 技術による繁殖・分娩管理や哺乳ロボットの導入により、省力化と繁殖成績の向上を実現している。
- (2) 圃場管理システムを導入し、90 筆ある圃場の位置をスマートフォンにおいて航空写真で確認することで、従業員が播種日、刈取日などの圃場情報を共有化し、作業の効率化を図っている。



作業風景

3 受賞理由の要約

- 地域での農地集積、飼料生産に取り組むとともに牛管理や圃場管理システム等の導入を図ることで業務を効率化。また、法人化にも取り組み、150 頭規模へ経営規模を拡大している。
- 長崎県指導農業者などに携わり、地域の農業発展にも大きく貢献している。

運営委員会長賞

受賞部門：特産部門（トップファーマー）

氏名（年齢）

しばた かつふみ
柴田 勝文（59歳）

しばた ゆみ
柴田 由美（58歳）

市町名 南島原市深江町

所属団体 西九州たばこ耕作組合島原支所



1 経営の概要

	主品目（葉たばこ）	その他（水稻、にら等）	合計
作付面積（頭羽数）	300a	水稻 40a にら 10.2a	350.2a
単収	343 kg/10a	—	343 kg/10a
生産量（販売量）	10.3t	水稻 11.5t にら 6.9t	28.7 t
労働時間 （うち雇用時間）	5,900 時間 （182 時間）	1,620 時間 （0 時間）	7,520 時間 （182 時間）
家族従事者数	4 人	経営の継続性	後継者が就農済み
労働条件の整備	家族経営協定（H21年）		
安全・安心と環境に 調和した農業の取組	堆肥による土づくり、立枯病対策の耕種的防除、たばこ耕作組合のGAP実践、 資源循環（自己完結）		

2 特徴的な取組

- （1）圃場を集約し、団地ごとに高架型作業車を配置して管理作業を効率化するとともに、受委託共同乾燥施設で乾燥作業の40%を行うなど労力の軽減を図っている。
- （2）安定して良質葉の高収量を継続し、総販売代金表彰を平成29年から3年連続で受賞するなど、県トップクラスの成績を取っている。



乾燥前の調整作業

3 受賞理由の要約

- 省力化機械を地域で率先して導入し、作業の効率化を図るとともに、土壌診断結果に基づく適正施肥などにより高い収益性を実現している。
- 地域のたばこ耕作組合の役職を歴任するとともに、共同乾燥受委託組合の設立推進や受委託組合長を務めるなど、葉たばこ振興に貢献している。

運営委員会長賞

受賞部門：産地集団部門（いきいきファーム）

ながさきゆうきのうぎょうけんきゅうかい
長崎有機農業研究会

代表者名 ながお やすひろ
会長 長尾 泰博

市町名 南島原市、島原市、
雲仙市

発足・設立年 昭和 58 年



1 組織の概要

品目	たまねぎ・かんきつ・ トマト・ばれいしょ・ にんじん等約 30 品目	構成員数 (認定農業者数)	43 人 (18 人)	産地規模	70.1ha
販売量	2,212.0t	販売額	500,135 千円		
単収	4,482kg/10a※	単価	297 円/kg※		

※単収および単価は販売額の約 9 割を占める上位 13 品目の加重平均

2 活動の特徴

- (1) 本県の有機・特裁農産物生産組織の代表的存在で、露地野菜を中心にかんきつ類など約 30 品目を 5 段階の自主基準の下、栽培を行っている。
- (2) 有機 J A S 認証農産物、特別栽培認証農産物として、全国の生協や有機農産物流通事業体と取引し、安全安心な農産物を消費者に提供している。
- (3) 栽培の基盤となる土壌や肥料農薬に関する勉強会を継続して定期的に開催することで、会員の技術レベルの向上を図り、高い単収・単価を確保している。



たまねぎの定植作業

3 受賞理由の要約

- 長年にわたって独自の厳しい自主基準により有機栽培・特別栽培に取り組み、安全・安心な農産物を全国の消費者に提供している。
- 県や南島原市の有機農業関係組織の会長等を務めるなど、本県の有機栽培・特別栽培組織の代表的な存在として、環境保全型農業の取組を牽引している。

運営委員会長賞

受賞部門：農山村地域保全部門（げんきビレッジ）

いっばんしゃだんほうじん だいだい
一般社団法人 daidai

代表者名 代表理事 さいとう 齊藤 ももこ

市町名 対馬市

発足・設立年 平成 28 年



1 組織の概要

構成員数	1名 他スタッフ4名	組織の性格	鳥獣被害対策と普及啓発等を担う一般社団法人
活動内容	鳥獣被害対策、イノシシやシカの資源活用、教育・普及啓発		
活動実績	被害相談会数：延べ84集落（H28～） 鳥獣被害対策授業：延べ14校334人（H28～） 等		

2 活動の特徴

- (1) ICT技術の活用や市と連携した捕獲体制づくり、被害相談会等による地域に適した鳥獣被害防止対策に取り組んでいるほか、「獣害から獣財へ」をキーワードに、人と野生動物の共生を理念としてレザークラフトなど捕獲個体の加工商品の販売、市民への啓発活動なども行っている。
- (2) 市が運営する野生鳥獣加工処理施設の衛生管理を請け負い、野生鳥獣加工処理施設として県内初の「ながさき HACCP」の取得に寄与。徹底した管理のもと高品質な食肉が生産されている。
- (3) 小中学生などに対しては、捕獲から捕獲個体の活用までに関する普及啓発を行い、ジビエ給食の提供等にもつながっている。



捕獲隊講習
(安全かつ効率的な箱罠の設置)

3 受賞理由の要約

- ・対馬市の農作物被害額は平成27年度の約800万円から平成30年度は約440万円となるなど、鳥獣被害の低減、防止に貢献している。
- ・農作物被害集落や捕獲従事者、一般市民および関係機関を繋ぐ、地域コーディネーター的存在で、地域の活性化に向け更なる活躍が期待される。

運営委員会長賞

受賞部門：都市との交流部門（げんきビレッジ）

たかきちようさんりんきようぎかい
高来町山林協議会

代表者名 会長 ますやま ただお 増山 忠男

市町名 諫早市

発足・設立年 平成 18 年



1 組織の概要

構成員数	4 団体（役員数：9 人）	組織の性格	森林整備・管理、地域経済活性化に取り組む任意団体
活動内容	里山再生活動、環境整備、森林環境教育活動、「木の駅プロジェクト」		
活動実績	ツクシシャクナゲ植栽本数：のべ 2,650 本、 木の駅たかき林地残材出荷量：のべ 827.6t、 地域通貨発行枚数：のべ 8,493 枚（換算金額 4,247 千円）		

2 活動の特徴

(1) 宇良・湯江・小江・深海の 4 つの山林会を母体に、諫早市の合併を機に設立。里山再生活動や環境整備、森林環境教育活動のボランティア活動に加え、「ツクシシャクナゲ植樹祭」や「多良岳ツクシシャクナゲ祭り」を開催し、身近に森林と親しみ、関心を持てる空間を提供している。

(2) 間伐作業後に林内に残された低質木材を木の駅に持ち込むことで、木の駅から対価として地域通貨が支払われる「木の駅プロジェクト」に県内で唯一取り組んでおり、森林整備の促進と地域経済の活性化に寄与している。



ツクシシャクナゲ植樹祭

3 受賞理由の要約

- ・里山再生活動、森林環境教育活動のボランティア活動、ツクシシャクナゲ植樹祭の開催や、「木の駅プロジェクト」など発展的に取り組み、活動を通じて地域の活性化に貢献している。
- ・「木の駅プロジェクト」は、林内の残材を活用した地域通貨による森林整備の促進と地域経済の活性化につながる先進的な取組であり、今後の発展が期待される。

特 別 賞

特別賞 受賞部門：特別部門

ながさき
長崎トヨペット株式会社

ながさきかぶしがいしゃ
ネッツトヨタ長崎株式会社

代表者名 代表取締役社長 ばば まさたか
馬場 政隆
(トヨペット)
代表取締役社長 いちかわ きよし
市川 清史
(ネッツトヨタ)

市町名 長崎市

発足・ 昭和 31 年 7 月 (トヨペット)

設立年 昭和 44 年 2 月 (ネッツトヨタ)



1 組織の概要

構成員数	新車販売店舗数：20 店舗 (トヨペット 11・ネッツ 8・レクサス 1)、中古車販売店舗数：4 店舗	組織の性格	長崎県内で車両販売・整備を展開する企業
活動内容	「長崎県森林保全パートナー活動」(平成 20 年度～) 企業の森「トヨペット・ネッツハイブリッドの森」(平成 21 年度～)		
活動実績	「ハイブリッドの森」整備実績：36ha 森林整備による二酸化炭素吸収量：「プリウス」1,016 台分		

2 活動の特徴

- (1) 平成 20 年度から、環境負荷を低減するハイブリッド車 1 台の販売につき定額を基金として積み立て、地域の森林に関係する人々と協力して森林の保全、育成を行う「長崎県森林保全パートナー活動」を開始した。
- (2) 平成 21 年度には、県営林を県内初の企業の森「トヨペット・ネッツハイブリッドの森」として森林保全活動を開始し、5 年ごとに森林整備区域を拡大しながら現在まで継続している。
- (3) 林間学校の開催や間伐体験の実施など環境教育の場を提供するとともに、県内企業と連携し、県産材を活用した木製遊具の作成や植樹祭など各種イベントにおいて苗木の寄贈など地域の活動を積極的に支援している。



植樹祭の実施状況

3 受賞理由の要約

- ・「トヨペット・ネッツハイブリッドの森」の活動は地球温暖化の防止に貢献しており、県内の他の企業にも波及している。
- ・今後も、県民の森林を守り育てる意識の向上と環境保全の機運の醸成に貢献することが期待される。

特別賞 受賞部門：特別部門

いっぽんしゃだんほうじん
一般社団法人

にほんぞうえんけんせつぎょうきょうかいながさきけんしぶ
日本造園建設業協会長崎県支部

いっぽんしゃだんほうじん
一般社団法人

ながさきけんぞうえんけんせつぎょうきょうかい
長崎県造園建設業協会

代表者名 支部長 まつだ ひであき 松田 英明
(日本造園建設業協会長崎県支部)
会長 わたなべ みちあき 渡邊 道明
(長崎県造園建設業協会)



まつだ ひであき 松田 英明 支部長



わたなべ みちあき 渡邊 道明 会長

市町名 長崎市

発足・設立年 昭和 50 年（長崎県支部）、昭和 53 年（県協会）

1 組織の概要

構成員数	会員 19 社（長崎県支部） 会員 26 社、賛助会員 1 社（県協会）	組織の 性格	造園工事業を営む 企業で構成する組織
活動内容	造園技術の向上と業界の健全な発展を図るため活動、各種ボランティア活動		
活動実績	「雲仙多良シーライン」でのヒガンバナ植栽、美化活動 等		

2 活動の特徴

- (1) 諫早湾干拓潮受堤防道路の雲仙多良シーライン約 7 km に及ぶ直線部分に、平成 21 年度から 11 年間、ボランティア延べ 660 人により、会員が持ち寄ったヒガンバナの球根を植栽した。
- (2) 令和元年度、全線に約 33 万球の植栽が完了し、美化活動やボランティア活動への関心を高めるため、潮受堤防中央駐車場に記念碑を建立して県へ寄贈した。



雲仙多良シーライン

3 受賞理由の要約

- 秋の彼岸の時期には一斉に花を咲かせるヒガンバナが延々と咲き誇り、雲仙多良シーラインは農業・農村地域の新名所として愛される施設になっている。
- 諫早湾沿岸の景観向上につながったことで、周辺の農業・農村地域の交流人口の拡大等、地域間交流の活性化にも寄与しており、今後も雲仙多良シーラインの魅力を一層向上させ、都市と農村の交流促進に繋がることを期待される。